



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
5/26 (月)	+ 400	▲ 2,100	▲ 1,700	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 1,600		
5/27 (火)	+ 1,000	▲ 2,000	▲ 1,000	流動性供給			日: 植田総裁が日銀金融研究所主催の国際コンファランスで開会あいさつ 米: 消費者信頼感指数 (5月) 欧: ユーロ圏消費者信頼感指数 (5月)
5/28 (水)	+ 1,000	▲ 2,000	▲ 1,000		共通担保 ▲ 8,000		日: 日銀金融研究所主催の国際コンファランス氷見野日銀副総裁とニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁が対談 米: FOMC議事要旨 (5月6、7日開催分)
5/29 (木)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	国債発行 (40年)			米: GDP (1Q、改定値)
5/30 (金)	+ 900	▲ 2,500	▲ 1,600				日: 小売売上高 (4月) 米: 個人消費支出 (PCE) 価格指数 (4月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比8,300億円増加の531兆100億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行、各種財政資金の支払い等の要因により増減し、23日は530兆7,600億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.478%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.477%~0.610%のレンジ、1M~3M物0.59%~0.70%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、27日に日銀植田総裁が日銀金融研究所主催の国際コンファランスで開会あいさつ。海外では28日にFOMC議事要旨 (5月6、7日開催分)、30日に米個人消費支出 (PCE) 価格指数 (4月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ~ 0.478
1M	0.53 ~ 0.70
2M	0.55 ~ 0.75
3M	0.58 ~ 0.75
6M	0.65 ~ 0.80

<レポ>

足許GC取引は週を通して+0.49%~+0.50%の狭いレンジで推移した。輪番オペがあった19日と23日も水準に変化は見られなかった。SC取引は2年460~468回債、5年155~177回債、10年355~370、378回債、20年110~130回債、30年85~86回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ~ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,900億円で、週間償還額の1兆1,300億円を上回った。発行残高は先週末時点の23兆4,684億円から、5月22日時点で23兆5,027億円に減少した。発行市場は、卸売、建設、化学、鉄鋼、不動産で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、先週に引き続き、a-1格相当の1か月物では、0.50%台前半から0.50%台半ばでの出合い、3か月物では0.50%台後半から0.60%台半ばとなった。

来週の償還額は2兆2,000億円となっている。発行市場は月末に企業の調達ニーズが高まり、活況なマーケットになると見込まれる。1か月物に関しては0.50%台前半から0.50%台半ばでの出合い、3か月物に関しては0.50%台後半から0.60%台半ばと、横ばい圏での出合いを予想する。

<TDB>

19日の1Y (1307回債) の入札は、最高落札利回り0.5783% (前回債0.5454%)、平均落札利回り0.5702% (前回債0.5292%) となった。

23日の3M (1308回債) の入札は、最高落札利回り0.3934% (前回債0.3793%)、平均落札利回り0.3818% (前回債0.3677%) となった。

来週の入札は30日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。